

# 旅

August 08  
Monthly Magazine

旅が好き、おしゃれも大好き。  
Elegance on the Go

パリから3時間の花の旅

ノルマンディは、  
薔薇の村から。

特集の情報リンク、予約・手配が可能になった  
旅コンシェルジュご利用ください！

おしゃれ散歩MODE 04  
シャネル CHANEL  
チューリッヒ旅ガイド付き  
スイス・時計フェア速報。

# 薔薇を描いた画家が、過ぎた場所。

ジェルブロワに住み、この村を薔薇の村に変えたアンリ・ル・シダネル。彼が繰り返し絵に描いた自宅の庭を訪ねよう。  
Photos: KOO SAITO, Coordination: AYAKO GOTO



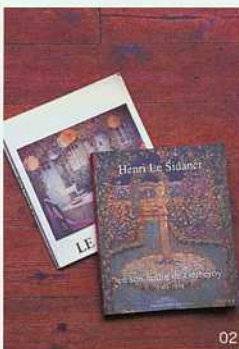
シダネル邸の敷地内にあるアトリエ。彼の絵の複製や画集が集められている。



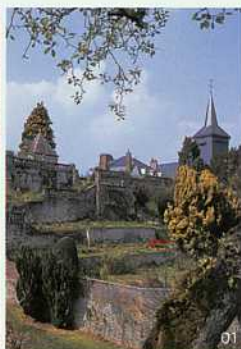
04



03



02



01

01・シダネルが設計した庭。広い庭は段々畑のようにいくつもの段差がある。庭には、彼が好んで描いた東屋も建っている。02・シダネルの作品集。日本ではひろしま美術館、大原美術館、東京富士美術館などで彼の絵画作品を見ることができる。03・庭の高台からジェルブロワを一望。04・シダネルの庭の管理人、ジャン・ピエール・イスさん。



## レ・ジャルダン・アンリ・ル・シダネル

Les Jardins Henri Le Sidaner

### MUSEUM DATA

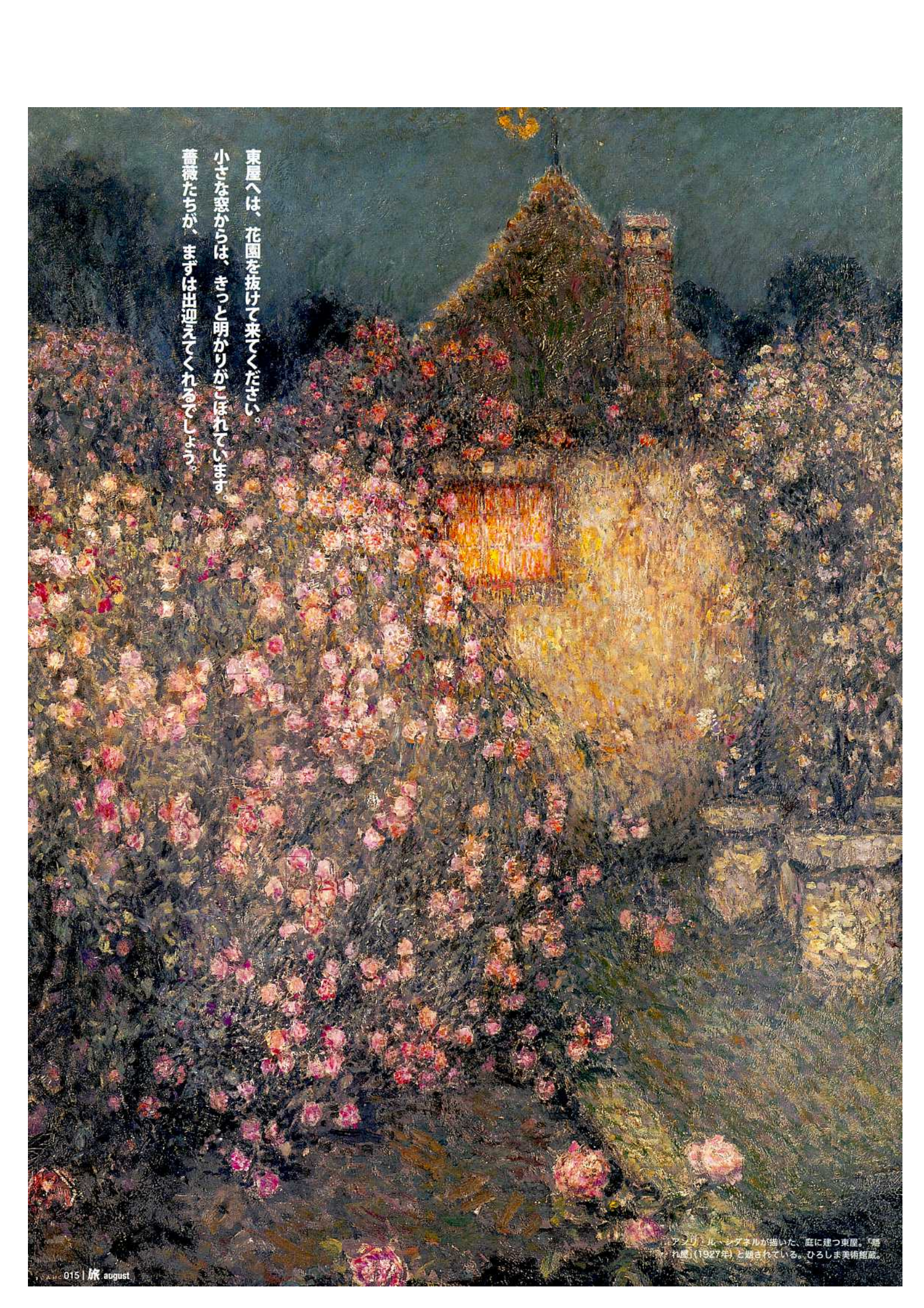
● 7, rue Henri Le Sidaner 60380 Gerberoy  
● ☎ 03-44-82-36-63 (予約制)  
● 時 10:00 ~ 17:00  
● 休 11/1 ~ 4/1  
● 料 €5  
● カード：不可  
● www.lesjardinshenrilesidaner.fr  
MAP → P017

ジェルブロワを薔薇で埋めつくそう——そう提案し、村を美しく魅了させた画家のアンリ・ル・シダネル。彼は花咲く庭や室内など身近な風景を、淡い色調と点描画法を駆使した優しいタッチで描いた。その絵は、たとえば手入れの行き届いた庭や窓からみえる明かりなど、いつもどこかに人の気配を感じさせる。懐かしさと喪失感を併せ持った詩情あふれる絵だ。ジェルブロワに移り住んでは、自宅や村の風景を描き、ここで300点あまりの作品を残した。その彼のアトリエと庭が公開されている。庭はいくつもの段差があり、そのてっぺんからは、花で彩られた庭と村全体を見渡すことができる。庭の管理を任されているムッシュ・イスはいま庭の手入れに大忙し。来年はシダネル没後70年の年。「シダネルが白い花だけを植えた『白い庭』を再現しよう」と思っている。レンガの壁は白薔薇の蔓を3重にして滝のように飾るんだ。来年の薔薇の季節もおいで。きつと見事だよ」



アンリ・ル・シダネル  
Henri Le Sidaner  
(1862 ~ 1939)

パリ国立美術学校で学ぶ。後に印象派絵画に影響を受ける。1901年にジェルブロワに移り創作を続けた。



東屋へは、花園を抜けて来てください。  
小さな窓からは、きっと明かりがこぼれています。  
薔薇たちが、まずは出迎えてくれるでしょう。

アンリ・ル・マティスが描いた、庭に建つ東屋。「薔  
れ屋」(1927年)と題されている。ひろしま美術館蔵。

# では、薔薇の村をご案内します！

薔薇の村ジェルブローフは小さな村。レストランやカフェもほんの少し。でも挨拶を交わせば素敵な笑顔が返ってくる。

Photos : KOO SAITO, Coordination : AVAKO GOTO, Illustrations : CATO FRIEND



なだらかな丘陵地帯に  
ささやかな集落を形づ  
くっているジェルブローフ。



- 2, allée du Jeu de Tamis  
60380 Gerberoy
- ☎03-44-82-16-50
- ☎ 12:00~14:00, 19:15~21:00  
(サロン・ド・テは9:30~11:00,  
14:30~19:00)
- ☎月、火と日の夜、12・1月
- ☎予約：したほうがよい
- ☎一人あたりの予算：€35~50
- ☎カード：A、D、M、V
- www.ambassade-de-montmartre.com



04



03

## 1 レストラン

Ambassade de Montmartre

アンバサード・ド・モンマルトル

散歩途中の休憩スポットとしても。

薔薇の咲く季節には、ここも外壁が色とりどりの薔薇で華やかに飾られる。看板料理はマダムムの創作料理である、鴨のフォアグラと薄くスライスした林檎をミルフィーユのように何層にも重ねた一品。ランチとディナーの間は、お茶が飲めるサロン・ド・テになる。

01・レンガと木骨を組み合わせた趣のある家の外観。02・マダムムが切り盛りする落ち着いたレストラン。03・この地方のチーズ、トム(右)とブレ・ピカールの2種盛り合わせ。€31のコースの1品。04・牛肉のフィレとフォアグラのポワレ。コースの価格に+€9



古い井戸があって絵になる通りなので、画家がよくキャンバスを立てている場所。絵を覗くとみんなうれしそう。この通りにギャラリーもある。

## 2 カフェ

La Terrasse

ラ・テラス

甘いクレープでひと休み。

額縁職人のジャン・ピエールさんが開いている村で唯一のカフェ。外のテラスでは皆がシードルを飲んだりクレープを食べたりしながら、のんびりとくつろいでいる。観光客に混じって、画家や彫刻家などアーティストたちが集ってお喋りしている楽しい光景にも出会う。



02



01・チョコレートのクレープ€3.50、シードル€3 02・イチゴ、カシス、林檎、フランボワーズの4種類のシャーベットの盛り合わせ€6



ささやかな入り口を入ると気持ちのいいテラスが広がる。

- 27, rue du Logis du Roy  
60380 Gerberoy
- ☎03-44-82-68-65
- ☎ 11:00~19:00  
(4・5・9月は14:00~、  
10~3月は14:00~17:00)
- ☎10~3月の月~金
- ☎カード：不可



